

# Aa [ei,ei]

「自然や環境」のことに触れなくなったり、  
ライフスタイルを考えたりするヒントが  
この「エイ・エイ」の中に入っていますヨ。



## CONTENTS

- ◆あまくま「はちみつ探し」の旅⑦
- ◆情報交流コーナー:あま・あま・ボン  
・「尼崎運河オープンチャネルフェスティバル」  
が開催されました!
- ◆新・尼崎物語vol.2  
「尼崎運河から浜田川 二つの水」
- ◆尼崎21世紀の森LIFE:  
・シリーズ企画/森林イノベーションの源泉⑥
- ◆What's「尼崎21世紀の森づくり?」

「環境とライフスタイルを考えるフリーマガジン」2018年2月20日発行 NPO 尼崎21世紀の森 <http://www.amaz21.or.jp/>

## 「あましん」地域の環境文化の創造活動

第7回「あましんグリーンプレミアム」の最優秀賞や各部門賞が決定しました。

今回で7回目となる「あましんグリーンプレミアム」は、平成29年6月1日から8月21日の期間で募集を行い、142先(143案件)の応募をいただきました。

第1次、第2次の書類選考を経て、平成29年11月22日に行われたプレゼンテーションによる最終選考の結果、最優秀賞には株式会社宝塚すみれ発電様の「再生可能エネルギーをツールとした地域活性事業」が選ばれました。同社の受賞は、エネルギーの地産地消を目指す小さな市民発電所「宝塚すみれ発電所」を運営し、再生可能エネルギーを活かしたまちづくりに積極的に取り組まれていることが評価されたものです。

平成29年12月4日、都ホテルニューアルカイクで授賞式を執り行い、最優秀賞ならびに各部門賞の皆さまに参加いただきました。

基調講演では、国際金融アナリストの末吉竹二郎氏をお迎えし、「加速化する脱炭素経済への歩み」をテーマにお話しいただきました。

第7回 あましん グリーンプレミアム授賞式



作田誠司理事長 / 株式会社宝塚すみれ発電 井上保子代表取締役



授賞式に臨まれた皆さま

## 尼崎21世紀の森 あましん植樹祭


平成29年10月7日、尼崎の森中央緑地において7回目となる「あましん植樹祭」を開催しました。

オープニングセレモニーでは当金庫の橋本博之会長のあいさつに引続き、来賓を代表し、荒木一聡兵庫県副知事、稲村和美 尼崎市長にごあいさつをいただきました。

今回は、第5回定額積立定期預金「どんぐりの木」に加入され「苗木の里親」として2年間、手塩にかけて苗木を育てていただいた皆さまと、公募で集まっていた皆さま1,000名、当金庫従業員1,200名を合わせた2,200名で植樹。約1,300m<sup>2</sup>にクヌギやウバメガシなど3,000本を植え、当金庫が地域の皆さまと植樹した苗木は合計16,500本となりました。



「尼崎21世紀の森づくり」を応援しています。

 **尼崎信用金庫**

AMASHIN

<http://www.amashin.co.jp>

あましん 検索



21世紀の森で生まれた「あまくま」が、森を出て尼崎の街を紹介するよ!

Amakuma

- ◆誕生日: 8月2日
- ◆生まれたところ: 尼崎21世紀の森
- ◆性別: 妖精
- ◆好きな食べ物: ハチミツ
- ◆得意なこと: おいしいハチミツを見つける

vol. 7

今、大流行している謎(ナゾ)解きゲームが尼崎で!!

平成29年11月19日、尼崎市、NPO法人「人と自然とまちづくり」と、「あまん樹」が共催する「尼崎ナゾ解きゲーム」が開催されました。尼崎の南部を中心に、歴史、環境、産業をテーマに尼崎の魅力を楽しみながら知ってもらうことが目的です。

テーマの1つ産業では、新興化学工業株式会社、株式会社クボタ、株式会社ニプロンの三社にご協力していただき、工業見学も取り込むことができました。



龍神のつぶやき  
ニプロンの???年コンバーターは、熱に強く様々な環境で使用できるのじゃ。

ナゾを解いて、楽しく学ぶ

街歩き型謎(ナゾ)解きゲームとは

謎(ナゾ)を解くたびに次の目的地が示され各ポイントをまわりながらゴールを目指すゲーム。

【ナゾの例】  
~株式会社ニプロンにて~  
次の式があります  
| 100 10 100=200  
| 8 10 3 1 7=4  
では、103 13 1 6=???  
ヒント: ???年コンバーター



いよいよナゾ解きが始まる!! (尼崎センタープール前)



参加された方達は...



ナゾが深まっていく!!  
ナゾが、どんどん解かれていく!!

今回の「尼崎ナゾ解きゲーム」には37名の方が参加してくれました。年齢層は幅広く、8歳〜50代まで、尼崎にゆかりのある方から、初めて来てくれた方まで様々でした。参加者は「ナゾは難しかったけれど、楽しかった。」「尼崎のことをさらに知ることができた。」「こどもと一緒に楽しめました。」

初の試み!? ナゾ作り!!

尼崎の魅力や歴史をもっと楽しく知って学んでほしいーその思いから、ゲーム感覚で学ぶことができなにかと思いついたイベントです。

私たち「あまん樹」も、ナゾを作るのは初めてのことで、とても苦労しました。当日は、参加者が必死になつてナゾを解いている姿を見て、ひと安心。苦戦しているの様子を、少し嬉しかったです。これをきっかけにして、より多くの人に尼崎の魅力を知っていただけたらと思います。今度もこういった企画ができるよう頑張っていきます!



ついに、ここまでナゾ解いて、やって来た!!



(注)NPO法人「人と自然とまちづくり」について:  
自然と人が、人と人が心豊かに共存できるまちづくりを軸に、20世紀の負の遺産を解消し、成熟期における環境の創造、再生を行うことを目的としています。

夏休みに作った巣箱を実際にかけに行こう!の会

いよいよ、巣箱をかける季節が近づいてきました。子供たちと昨年の8月に作った、巣箱を一緒にかけに行きます!  
(詳しくは前号の第13号で)



これからの予定

- 1回目 2月3日(土)13:00~
- 2回目 3月3日(土)13:00~
- 観察会 4月ごろ(予定): 尼崎中央緑地パークセンターで





## vol.2 尼崎運河から浜田川 二つの水門



尼崎開門

尼崎沿岸部は戦前から工場地帯として開発が進み、用水汲み上げによる地盤沈下が深刻な問題となっていました。度重なる高潮の被害を受け、防災政策が進みます。その中心、尼ロックは1954年に完成、今は周辺の水門を一括管理するコントロールセンターで、市の0メートル地帯を守っています。正式名称は尼崎開門(こうもん)で、二重扉の開閉で水位を調節するパナマ式の水門です。実は尼崎市民ではない私が尼崎に来るきっかけになったのも、尼崎運河と尼ロック。今は、SUP(スタンドアップ・パドルボード)というスポーツを通して、運河を活性化する市民活動に参加しています。



浜田川水論半死者墓碑

この近辺の農地に水を供給していましたが、1764年に農業用水を巡って争いが起き、投獄された浜田村民が獄死した、浜田村水論の舞台です。その碑が、浜田町の墓地に残っています。碑には獄死したとされる10名の名が刻まれています。



難波樋門

ボードに乗って尼ロックを通過するのはとてもエキサイティング



浜田川サギ

刻まれ、今も花が供えられています。現存する難波樋門は1950年代に作られ、旧樋門はその後取り壊されました。田畑が減り、浜田川も排水路と名前が変わり、1989年には暗渠化計画も持ち上がりましたが、地元住民の反対運動で今の姿が残されました。ここで暮らす人たちにとって、この水辺がとても大切なものであることがうかがえます。水路に沿って歩いてみると、浅いながらもきれいな水が流れ、鯉がたくさん泳いでいます。なにか生き物を狙っているのか、サギの姿も見えました。水を巡る争いや地盤沈下、水質汚染や水害は、私たちが水なしでは生きていけないことの現れでもあります。水を守ることは自分自身を守ること。二つの水門は、水とともに生きることを難しさと大切さを思い起こしてくれます。

ご協力：辻川敦氏(尼崎市立地域研究資料館館長) 横山知代子(尼ノ物語キ組)

# あまあまポン

【尼崎21世紀の森・情報・交流コーナー】

このページでは「尼崎21世紀の森づくり」の活動の様子をお知らせします。



10月14日(土)

### 尼崎運河

### オープンキャナルフェスティバルが

### 開催されました!



SUP(スタンドアップパドルボード)体験

2017年10月14日には、そのプレイベントとして、「尼崎運河オープンキャナルフェスティバル」が開催されました。その様子をレポートいたします!

当日、心配された雨はなんとか持ち、たくさんの人で賑わいました。会場では様々なブーイングが立ち並び、運河のいろんな楽しみ方を体験することができました。尼崎の森で出た間伐材を用いた工作コーナーや、運河のヨシを使ったすだれづくりのコーナーでは、子どもたちが楽しそうに製作に取り組み姿が見られました。楽しみながら自然に触れることができるので、素敵ですね。

「キャナルウォーク」や「エコツアー」のコーナーでは、「探検」しながら運河のことを詳しく知ることができました。他にも、「謎解き」をしながら運河をめぐることもできるコーナー

が。運河に沈められた謎を解きながら、運河のほとりを散策しました。謎も本格的で、とっても楽しめましたよ! 運河には、最大8人乗りのメガSUP(スタンドアップパドルボード)や、愛知県の運河で実際に使われているカヌーが浮かべられ、賑わいを見せていました。思ったよりスイスイ進むんですね。とっても気持ちよさそう!

あたりが暗くなると運河がライトアップされ、JAZZライブが行われました。水面もキラキラして、おしゃべりな音楽が似



運河のライトアップ



JAZZライブ

合いな運河。いつもとは違って、とっても大人な雰囲気も素敵でした。イベントには他の運河の関係者の方も来られており、イベントの最後にはそれぞれの運河の活用方法についての意見交換も行いました。いよいよ今年に迫った「全国運河サミット」も、とても楽しみです!

尼崎臨海部にかつての**自然環境=美しさ**を取り戻したい。  
日本の**発展を支えてきた誇り**を取り戻したい。  
かつてこの地に存在した**人間の活気**を取り戻したい。

そんな願いを込めて、平成14年3月に  
『**尼崎21世紀の森構想**』は、策定されました。それが尼崎市全体に  
美しさと誇りと活気を取り戻すきっかけになれば、という希望を持って。

**江戸時代**  
この尼崎には尼崎城という江戸幕府の直轄地であった、大坂の西の玄関口を守る重要拠点があったのをご存知ですか？

**明治の初め**  
この瀬戸内海が「世界で最も魅力的な景観」と絶賛されていたのをご存知ですか？

**明治から昭和**  
この尼崎臨海地域が関西の重化学工業の中心集積地として、わが国の産業や経済の高度成長を支える役割を担っていた事をご存知ですか？

**昭和40年代**  
この尼崎市が国道43号・阪神高速神戸線とともに公害問題が深刻化し、「公害のまち」という不名誉な称号を与えられた事をご存知ですか？

**近年**  
巨大工場が建設され一時的に臨海部での産業の活性化に期待が高まるも、世界経済の波の中で再び冷えている事をご存知ですか？

**これから『尼崎21世紀の森構想』**  
かつての**自然環境=美しさ**  
日本の**発展を支えてきた誇り**  
**人間の活気**  
を取り戻したい。

環境改善を利用した先進的な「まちづくり」それが『この尼崎21世紀の森構想』の本質です。ナカナカ素敵な計画だと思いませんか？100年間のこの計画、進めて行けるのは、この尼崎が大好きな一人ひとりの市民、企業の皆さんなのです。

**編集後記**  
前号から「新・尼崎物語」を担当させていただいてます。海好きな父に町工場で育てられた私は、尼崎運河クルーズで見た工場群と尼崎港に大感激。SUPの活動に参加するようになってからは大好きだった水辺がぐっと身近になりました。その縁でAaに関わることもできて、好きなことがひとつひとつ実っています。  
尼崎を巡る、人や自然とのつながりに本当に感謝です。今回水辺の話が続いてしまいましたが次回は内陸へ！行くかな？  
(横山知代子)

「環境とライフスタイル」を考えるフリーマガジン

エイ・エイ：2018年14号(2月●日発行)  
NPO尼崎21世紀の森 Aa 編集部  
ホームページ <http://ama21mori.net/>  
〒660-0815 尼崎市杭瀬北新町3-2-2 大信ビル3F  
TEL 090-8233-4079

Chief Editor 岸本 幸三  
Editor/Writers 池田 和也 幸野 里沙 森上 恒  
石井 康之 菅 真澄 藤原 悟  
薄井 洋一 守 宏美 山本 仁湖  
太田 洋平 森井 敬介 横山知代子  
Designers 児玉 泰江 鳥山 大樹 ヒロコ・TG  
杉本さやか 田万まどか  
Print ウニスガ印刷(株)

森林イノベーションの源泉⑥

～森林資産③～

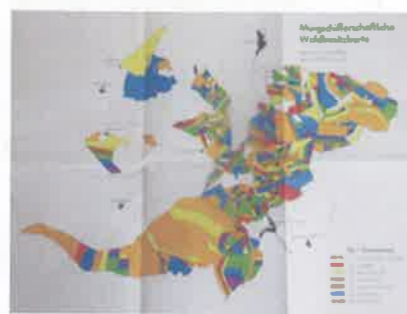
今、森が生まれ育まれようとしている。自治体としては日本最大の森林面積を誇る岐阜県高山市。一見すると全く関係ない両都市だが、ここでは高山市を基盤に活躍する井上氏から森林業から派生する多様なイノベーションを紹介してもらい、森林からもたらされる恩恵に思いを馳せ、これから森づくりを活性化したい尼崎の希望につなげていきたい。

第6回目、いよいよ最終回となりました。森林イノベーションの源泉、今はいよいよ、「森林と金融(特にファンディング)」についてみていきたいと思います。

森林投資ファンドとは、様々な投資家から資金を受託して林地資産を取得する資産運用サービス事業者です。取得した林地において林業を行うことでリターンを生み出しながら投資家に対して配当を行うことでそのサービスの対価として手数料を収受する事業者でもあります。

アメリカでは2000年に200億ドル(20兆円)だった市場規模が、2013年には1000億ドル(9兆8兆円)と5倍に伸びていますが、日本では資金活用は一切ない、という調査報告もあります。

この資金活用により、新しい経営主体が参画する、ということには、もう一つはこれまでの個人や法人といった所有形態から、ファンドが所有する、という「所有構造の変化」が起きることも意味しています。ファンド資金の流入により所有構造が変化し新しい生産方法などが試されていく、ということですが、また、ファンドといいますが、あまりよくないイメージもあるかもしれませんが、所有構造の変化によって大幅に経営が改善した事例で興味深いのがドイツの事例です。これは私が調査にいったある事業者での所有権変化に伴う経営の効率化の事例です。



ついにまとめ、運用を最適化するため、1900年にはそれらを一つの所有権(ファンドのようなもの)にまとめ管理を行うことになりました。通常ドイツでは地域によって異なりますが、相続が発生するとほとんど等分相続で面積が小さくなっていき複雑化します。ただ、一つにまとめると変化せず株式や受益権などの債権が変化していくだけで山側の所有権変化に伴う複雑な対応を行わずにかつ、超長期的な山林経営が行えるため、非常に効果的です。

つまり、ファンドのような金融スキームを講じるなどといった新しい所有形態も参入することで、所有形態と経営が活性化していくことが森林経営を新しくしていく切り口になっていくと考えられ21世紀の日本の森づくりに新しい何かを示唆し得るテーマではないかと考



1900年～事業者Aが管理(上記ブルーの箇所が当初7家族が所有していた部分)5500haを管理して面積配分に応じて「森林権(バレットヒト)」を発行。現在は10万株を発行し、120人の株主が存在しています。



井上 博成 氏  
京都大学大学院経済学研究科博士課程・植田研究室所属。岐阜県高山市出身。自然エネルギー利用日本一や木材の持続的な利用を目指して研究・実践活動を進めている。



えられます。海外では当たり前となってきた所有構造が日本でも取り入れられ始める、いよいよ日本での森林からのイノベーションも促進されるかもしれませんね。さて、これまで6回にわたって様々な取り組みから新しいテーマまで触れてきました。いろんなバツクグラウンドを持つ人々が参入して、日本の森がもっとワクワクするような仕組みが日本にできる、いいですね。少し宣伝ですがこんなサイトを私も一緒に運用しています。ここでいろんな山林証券を購入できるような社会を作りたく考えています。ぜひご覧ください。できれば幸いです。